

結婚を希望する独身の男性・女性の皆さんへ



「上早川ダッシュ村」で開催されたふれあい交流会

■第4回ふれあい交流会を開催

甲佐町産業後継者育成対策協議会（本田新会長）では、12月11日（日）に第4回ふれあい交流会を開催しました。25歳〜39歳の独身男女8人が体験交流などを通して、新しい出会いを楽しみました。

今回は、上早川の体験施設「上早川ダッシュ村」（井藤直行代表）で開催しました。きねとうすを使った昔ながらのもちつきでは、男性と女性の息がびつたりで、テンポの良い音と笑い声と一緒に響き渡りました。手作りのだご汁やおにぎりで昼食を楽しんだ後は、男女ペアになって物語を創作するゲームに挑戦。それぞれのペアが、個性豊かなオリジナルの作品を仕上げました。発表の際には、照れながらも物語の主人公に

なりきってお互いをニックネームで呼び合うなど、初めて出会ったとは思えないほどの和やかな雰囲気になりました。後半は、たき火を囲み、焼きいもを楽しんで交流を終え、今回は2組のカップルが成立しました。交流会終了後は、男性参加者たちが計画した懇親会の会場に移動して、さらに盛り上がりました。

参加した女性からは、「1日ゆっくり交流できて大変良かったです。懇親会も、全員参加して楽しめました。その後も、男性とは交流が続いています」と報告が届いています。

■交流会の登録者を募集中

ふれあい交流会「I&愛」では、「もつと異性と出会いたい」、「真剣に結婚相手を探したい」とお考えの独身の皆さんを応援します。ふれあい交流会のほかにも出会いのチャンスはありますよ。

▼対象

20〜49歳の独身男女

※男性は、町内在住者に限りです。

▼お申し込み・お問い合わせ先

甲佐町産業後継者育成対策協議会（町産業振興課内）担当・藤本

☎080・1705・5339

✉kosa\_hu\_touryukai@docomo.ne.jp

町産業振興課 ☎096-234-1111(内線153) ✉klg206@town.kosa.lg.jp

■絵画を通して健康の意識を

熊本県国民健康保険団体連合会および甲佐町国民健康保険では、作品の制作を通じて子どもたちにも健康づくりへの意識を高めてもらおうと、小学生を対象として、第18回健康づくり作品コンクール（熊本県国民健康保険団体連合会主催）および平成23年度甲佐町国民健康保険健康づくり絵画・ポスターコンクールを実施しました。

多数の応募の中から決定した入賞者をご紹介します。（敬称略）

●第18回健康づくり作品コンクール

- 中学年の部・入選  
藤本 飛雅（龍野小4年）
- 高学年の部・入選  
本田奈菜子（白旗小6年）

- 平成23年度甲佐町国民健康保険健康づくり絵画・ポスターコンクール

国保で健康づくり作品コンクールを開催



町生涯学習センターにコンクール入賞作品を展示

- 低学年の部・最優秀賞  
松尾 怜奈（龍野小2年）
- 低学年の部・優秀賞  
馬場 幸英（甲佐小1年）
- 低学年の部・入選  
井藤 遼人（龍野小1年）
- 低学年の部・入選  
渡邊 伊吹（甲佐小2年）
- 低学年の部・入選  
佐藤 公亮（龍野小2年）
- 低学年の部・入選  
仲原 乙葉（龍野小1年）
- 中学年の部・最優秀賞  
小屋敷晏佳（白旗小4年）
- 中学年の部・優秀賞  
笹原徳一郎（龍野小4年）
- 中学年の部・入選  
溪村 奈那（龍野小4年）
- 中学年の部・入選  
松角 仁美（白旗小4年）
- 中学年の部・入選  
谷頭 美麗（白旗小3年）
- 中学年の部・入選  
仲光 愛恵（白旗小3年）
- 高学年の部・最優秀賞  
田端 綺宇（白旗小6年）
- 高学年の部・優秀賞  
野口 拓哉（白旗小6年）
- 高学年の部・入選  
金柿 健吾（龍野小5年）
- 高学年の部・入選  
伊豆野武史（龍野小5年）
- 高学年の部・入選  
佐藤 朱莉（龍野小5年）
- 高学年の部・入選  
高崎 翔生（龍野小5年）

町住民生活課 ☎096-234-1111(内線106) ✉klg205@town.kosa.lg.jp

## 史跡「陣ノ内館跡」発掘調査レポート#19



石敷き遺構の全景（左）と横から見た遺構（右）

### ■北側土塁の上で発見された石敷き遺構が意味すること

現在までの「陣ノ内館跡」発掘調査で、土塁の上に不思議な遺構（人が活動した痕跡）があることが分かりました。写真左にある遺構は、「館跡」の北側土塁の中心から少し西寄りにあります。石の大きさは径3〜4<sup>寸</sup>で、形は全て丸みを帯びた川砂利に近く、幅0・8〜1<sup>尺</sup>の範囲で整然と敷き詰められています。

この石敷きを横から見ると（写真右）、並べられた石の凹凸が目立ち、表面をならして石を揃えたような痕跡は見つけることができません。さらに、この石敷き遺構の上にある石を外すと、下には15〜20<sup>寸</sup>程度の礫（れき）が出土しました。以上のことから構造を推測すると、根固めに

まず大きめの石で基礎を固め、その上に砂利を敷き詰めたようです。この遺構は、一体何のために作られたのでしょうか。同じような例を調べても見つかりませんでした。いろいろな人から話を聞くうちに1つの説が浮上しています。この遺構は、「土塁の上に土塀を築くための基礎だった」とする説です。通常、土の上に大きな構造物を作る際は、地盤が安定しないため必ず基礎を固めます。その造作は、今も昔も変わりなく、県内でも熊本藩主細川家墓所（妙解寺跡）で、築地塀の基礎が確認されています。

ただし、この説を裏付けるためには、若干根拠が足りません。例えば、上に築いた土塀の痕跡が全くない点（土を固めるために敷いた粘土の塊や粘土の間に詰めた砂など）や、今まで調べた中では全国的にも「土塁の上に塀を築いた」例がない点が大きな理由です。

この遺構は、土塁の上でほかにも2箇所出土しており、現在詳細に調べています。今後の調査で「土塀」の痕跡が確認されたり、文献などにより「土塀」を築けなかった理由が明らかになったりすれば、これは全国初の例となるかもしれません。今後の事業の成果にご期待ください。

町教育委員会社会教育課 ☎096-234-1111(内線324) ✉klg110@town.kosa.lg.jp

## 21世紀の最重要課題 男女共同参画の推進



男女を問わずサッカーを楽しむ子どもたち

昨年は、日本にとって歴史的な出来事が起こりました。その中でも、東日本大震災は、私たちに今までの生活を考えさせる機会になりました。家族の大切さや人と人とのつながり、絆（きずな）など、日本人だけではとどまらず世界の人々から援助の手を差し伸べていただきました。

今年も、復興元年といわれています。阪神淡路大震災では、復興会議などでの女性委員の割合が確保され、女性の視点が復興に重要な役割を果たしました。それを参考に東日本の復興でも、より住みやすい新しい町の再生に向けて、男性の視点だけでなく、女性の考えを取り入れた取り組みが行われることと思います。

また、東日本大震災で被災された皆さんをはじめとして、日本人に元氣、勇気、やる気を与えてくれたの

が、サッカー女子日本代表「なでしこジャパン」の女子ワールドカップ優勝です。最後まであきらめない女性の心の強さが優勝を導き、多くの人に感動を与えました。主将の澤穂希選手は、小学生のころに男子に混じってサッカーをしていたとき、「女のくせに」と言われたことをはねにして情熱を捧げ、国際サッカー連盟の女子最優秀選手にも選ばれました。女子W杯の優勝は、本人たちの努力はもとより、男性を含めた多くの人の支援があり、目的を達成するため一人ひとりが協力し、団結し

大きな力が発揮された成果です。わが国において、男女共同参画社会の実現は、「21世紀のわが国社会を決定する最重要課題」に位置付けられ、少子高齢化を迎えて社会に貢献する女性が求められています。そのためにも、女性が子育てをしなが

ら、働ける環境整備や周りの理解が必要で、時代は日々変化し、私たちの暮らし方も時代に応じたライフスタイルに変えていかなければなりません。

今年も始まったばかりです。まずは、「みんなが住みやすい社会」を実現するために、社会を構成する個人の考えや家庭のあり方、地域づく

町住民生活課 ☎096-234-1111(内線102) ✉klg106@town.kosa.lg.jp